

## 平成30年度第1回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：平成30年6月6日（水） 15時～17時

場所：教育委員会室

### 議事 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

#### ■資料1-1、1-2に基づき事務局より説明

#### ■主な意見

- 読書活動の取組の成果が出ている。どんな本を選べばよいか等、親子が接する機会が持てる。保護者と子どもが関わりを持てるような具体的な施策を期待する。
- いじめ対策は、解消率よりも、人権教育、生徒指導や教育相談の取組を充実させ、未然防止に力を入れるべきではないか。
- 「いじめ防止基本方針」を策定したとのことだが、市町の教育委員会や学校にただ通知するだけでなく、教員や児童・生徒まできちんと周知できているか点検すべき。
- 障害のある子どもやグレーゾーンの子どもの急激に増えている。また、通常学級での支援も増えており、担任の教員だけでは十分な支援は難しい。管理職のリーダーシップや地域コーディネーターの力が必要。
- 支援計画の作成の率は高いが、支援の「質」が重要であり、教員の経験の差等により支援の内容に差が生じている。地域コーディネーターも多忙であり巡回の回数も減っており、校内コーディネーターが力をつけることが必要。例えば、管理職が校内コーディネーターに入る等、組織だった支援が有効ではないか。
- 特別支援学校にもコミュニティ・スクールが導入され始めているが、障害を持つ子ども達と一緒に生きる社会をつくるために、地域で取り組むのはよいことと思う。
- 朝食や排便に関する指標は、それほど数値が高くないが、まずは、丈夫な体を作ることが非常に大切である。
- 現場の教員が、子どもたちと向き合えるよう、しっかり働き方改革に取り組んで、無駄をなくして、ゆとりを持てるようにしてほしい。

## 議事 山口県教育振興推進基本計画の策定について

■資料 2-1、2-2 に基づき事務局より説明

■主な意見

### ◇目標について

○教育の方針は大きく変わるものではなく、前計画から目標を引き継ぐことに共感できる。

プロジェクトの展開において、時代の変化に合わせ臨機応変に対応すれば良い。

○大学の進学率を指標とするだけでなく、就職してからも、本当に必要なときに学び直すことができる仕組みをしっかりと作るべき。

○「やまぐちっ子のすがた」（目指す人材育成の方向性）について、「多様な人々と協働して～」ではなく、「他者と協働して～」の方が適当と思う。

### ◇施策の展開について

○地域連携教育はしっかりやっている。

○変化に対応できる力、交渉できる力を伸ばすための施策を行うべき。

○学習改善に向けた教員の技量アップのための研修を充実させるべき。

○「開発的生徒指導」は自己肯定感につながるものであれば充実させるべき。

○学校支援人材はリタイヤした方や地域住民等、ボランティアを活用してもいいのではないか。

○働き方改革は、教員が子どもと向き合う時間をより多く持つために重要である。

○周りの人に相談できる体制を整え、幼稚園と小学校で連携をとることが大事。